

プレイバック  
フォトギャラリーpart3

哥磨会が防災協定締結!

2026年10月1日発行(毎月1回1日発行・毎月1日発売)  
第43巻第10号 昭和59年12月3日第三種郵便物認可

トラッカーマガジン

10 2026 OCT.  
No.526

The Trucker Magazine

特別付録

蔵出しフォト

名車

ポストカード

運送業界の諸問題解決に  
貢献するデジタルの力とは?

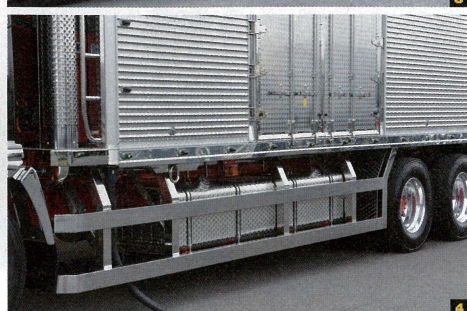
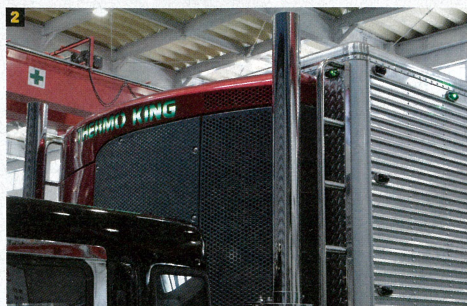
DX早わかり  
基礎知識



走る冷却装置が街道を往来

美麗冷凍車 大納涼祭!





1. メッキのメラメラ感たっぷりの舟型バンパーはアート界の匠として知られる石倉板金の逸品。2. 箱前方にはサーモキングの縦型冷凍機をマウント。ロゴはダイヤカットアクリルでLEDを仕込んでいる。3. マフラーはタイコ部分にもウロコステンレスを採用。切り換えにより通常と煙突を選択できる。4. ロッカーレールにはほどよい具合にマーカーが並び美しいラインを描く。5. リア観音扉下の化粧板は400mmの高さを確保。6. リア観音扉は日野ウロコを採用。蝶番はボルト4本のエサ屋仕様だ。7. サイドバンパーのパイプ高さは120mmだ。

## 実力派4社が匠の技を注いだ威風堂々たる大型冷凍車の雄!

名匠によるパーツと造りボディの美学!

平成14年式のテラヴィはリトラスのデモカーとしてトラックショーに出展され話題を呼んだ1台。車体を販売するリトラスと冷凍機のパイオニアであるサーモキング、造りボディに定評があるトランテックス、アイトトラック製作の名匠として名高い石倉板金の4社が協力して誕生したスペシャルな車両だ。

キャブは額縁メッキ仕様のフロントパネルにウイングマークが違和感なくフィット。石倉板金の手によるメッキ仕上げの舟型バンパーがメラメラ感を加速させる。また運転席のドアメッキやコーナーメッキもキャブサイドを美しく装うのにひと役買っている。キャブバックにはパンチングメッシュのヒートガードで覆われた重厚かつ見応えのある煙突マフラーがそびえ立つ。

ボディ回りは前方に新製品であるサーモキングの2エバ仕様縦型冷凍機を搭載。最上部のロゴをLEDによって優美に光らせる。ボディの内装は日野ウロコの輝きによりさらびやかに仕上げた。また、ロッカーレールと2段仕様のサイドバンパーがスマートなサイドビューを形成。見かけだけでなくエサ屋並みの強度にすぐれた構造となっている。排気は切り替え機能を備え通常と煙突の分割式だ。リア観音扉は両面にウロコステンレスを巻き、旧日野車体時代の蝶番を採用し剛性をアップ。スキのない仕上がりは「さすが」の一言だ。



# 冷凍機のサーモキング関東を訪問! 工場見学

冷凍機メーカーの代表格であり世界的なトップブランドとして知られるのが「サーモキング」だ。'38年にアメリカで創業し'63年に日本法人を設立。以来、長きにわたって物流業界を支えてきた。サーモキングの重要拠点の一つである「サーモキング関東」こと大澤電機商会を訪問し実際の取り付け作業を取材した。

**絶大な信頼を得ている  
冷凍機のパイオニア!**

「サーモキング関東」こと大澤電機商会は群馬県伊勢崎市に拠点を構える。76年の創業以来、半世紀にわたって日本の冷凍・冷蔵輸送を中心とした物流業界を支え続けている縁の下力持ちだ。

同社は世界的な冷凍機ブランドであるサーモキングの正規販売代理店であり、荷箱やコンテナの修理、日々のメンテナンス、冷凍装置の取り付け作業を手掛けている。

また、エンジンの改修工事、緻密な温度管理を可能にする断熱材を入れる工事、そして二次架装に至るまで極めて幅広い事業を展開しているのが同社の強みだ。

敷地内にある自社工場では熟練の職人たちが、持てる手腕を存分に振るっている。冷凍機を装着するための穴開け工事や断熱材を入れる工事といった冷凍機関連の専門業務にとどまらず、顧客の美意識に応える芸術的な側面を持つ高度な作業も施工。ウロコステンレス張りやガセットの打ち合わせ、サ



イドメーカーの取り付け、オリジナルの泥除け製作といったアートアップ関連の架装まで、多岐にわたるニーズに柔軟に対応している。

極上の冷凍車をつくり上げるため、運送会社の社長や現場で活躍するトラックたちが打ち合わせをするため足繁く通ってくるという。冷凍機のパイオニアとして大澤電機商会に寄せられる絶大な信頼を物語るエピソードだ。

「これからも冷凍車の製作だけでなく、アートトラックを愛する人たちのニーズになるべく近づける努力をしていきたいと考えています。サーモキングの冷凍機は高額だというイメージを持たれている方が多いと思いますが、金額面についても気軽に「相談ください」と話してくれた。



工場内では豊富な経験と高度な技術を持つ熟練スタッフが作業に動いている。この日は冷凍機のメンテナンス作業が行われていた。



工場内で整備されている大型トラック。ウイング車の上部には冷凍機の冷気吹き出し口を、側面にはコンデンサーをそれぞれ装着する。



普段は間近で見ることのないトラックの箱前面に装着される縦型冷凍機のカバー。上部のロゴはダイヤカットアクリルでLEDが緑色に輝く特注品。



職人の技術が十二分に発揮されるよう多種多様な機材や工具が用意されている。顧客が求めるあらゆるニーズに応えるために万全な体制が整えられている。



大澤電機商会の2階事務所には歴代のサーモキングカレンダーや垂れ幕といった貴重なアイテムが多数展示されている。ファンにはたまらない光景だ。

お問い合わせ／大澤電機商会 TEL：0270-23-2367 FAX：0270-23-1975

## 微に入り細をうがって造る 荷箱を一挙公開!

トランテックス製のウロコステンレス仕上げの荷箱にサーモキングの冷凍機というのは王道の組み合わせ。ディテールの美を堪能されたい!



ウロコステンレスの箱に載せ換え本格的な架装が始まる。



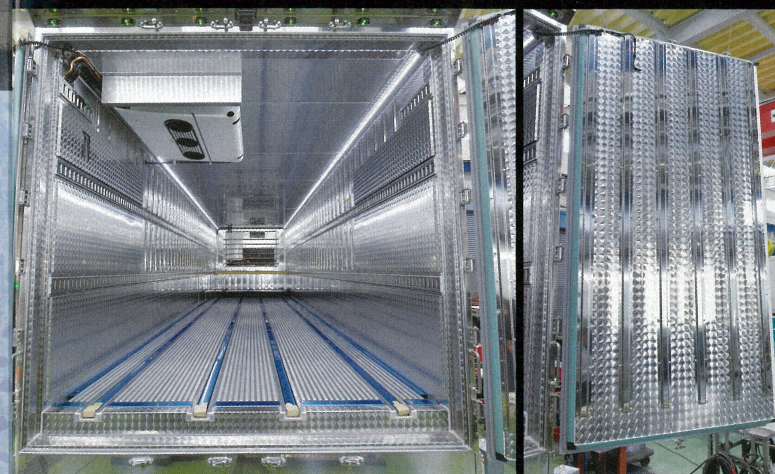
リトラサが用意した状態のいいシャシーを吟味して決定。



**荷箱の内部に張り尽くす  
スペシャルな日野ウロコ**

トラックショーに出展されたテラヴィ冷凍車は荷箱の内部にも注目だ。「日野ウロコ」ステンレスを贅沢に張り尽くしているのだ。外部業者に依頼するとコストがかかるため、荷箱本体の製作はトランテックスが手掛けた。

リア観音扉にはサーモキングの青いロゴマークや縦型アンダーを配置。リアとサイドの観音扉裏側にまで日野ウロコを惜しみなく張り巡らせ、特注車両ならではの豪華さを見せ付けている。冷凍機は最新のマルチ温度管理システムであるスペクトラムS3を搭載。外装の高い完成度はもちろん、内部の美しさや最先端の機能性を見逃すことはできない。



観音扉の裏側をはじめ冷凍ユニットの側面や縁に至るまで日野ウロコが贅沢に張り尽くされている。細部までプロの熟練技を注ぎ込んで完成した荷箱は仕事車トラックのプライドにかなう出来映えだ。



前部を低温、後部を中温にした場合に箱側面から積み降ろしができる構造となるサイドの観音扉。もちろん裏側や縁部分までキレイに日野ウロコが張られている。



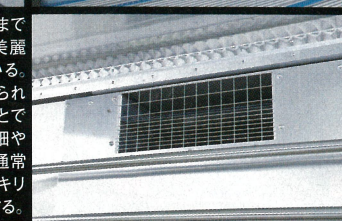
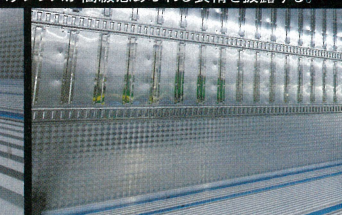
トラックの走行状態に左右されず、マルチ温度帯(複数温度管理)で温度維持を行うことができる冷却器S3型を搭載する。



螺番やボルトのピッチ、箱メーカーの位置などをバランスを考慮して配置。リアビューではコルゲートの箱サイドと観音扉の日野ウロコステンレスが高級感あふれる表情を披露する。



荷箱内部。床部や冷凍機の排気口上部までウロコステンレスが張り込まれており、美麗で清潔感あふれるイメージを創出している。冷凍機の機能面については第一に考えられてチョイスされており、仕切りをつけることで前面を低温、後部を中温にできるなど細やかな設定が可能。ジョルダンの格納は通常リア化粧板を切り欠いて付けるが、スッキリ見せるためオーバーハングサイドに搭載する。



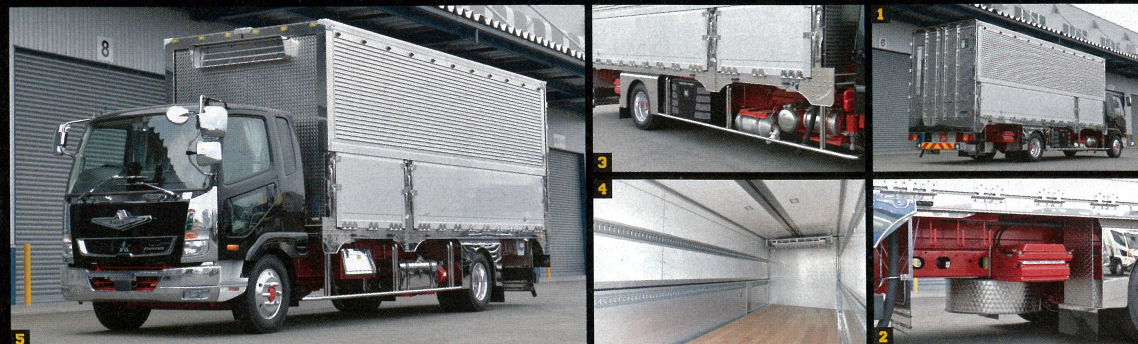




## 実車の完成後でもオーダーがあれば改良を実施!

リトラスを中心とするメーカー各社が強いこだわりを持って製作した実車が完成。展示会で披露されて顧客が購入した後も要望に応じて各パーツの変更に対応し、理想のトラックへと飾り上げることができる。また、最初から製作に携わり車両の状態を隅々まで熟知しているからこそ、購入後のメンテナンスやアフターフォローを万全の体制で提供できる点も大きな魅力となっている。

1. ウロコステンレスや各種パーツ類で中型車らしからぬ存在感を発揮するリアビュー。
2. スペアタイヤカバーにはウロコステンレスを採用し、絶妙なアクセントを加える。
3. 丸パイプ1本のサイドバンパーとサーモキングの冷凍機が絶品のサイドビューを実現。
4. 箱内の前面は縞板張り。上部に冷凍機の排気口を設置する。
5. 現在は車検準備のため一部のパーツを外した状態で工場に保管される。



**こだわりの凝縮されて 技法が光る中型冷凍車**

三菱ふそうファイターをベース車とした、職人技とこだわりの凝縮された見どころ満載の1台。トータルバランスを重視して製作されたこのクルマのアートポイントは、石倉板金が手掛けた高品位なキャデラックバンパー。上部には縞板があしらわれ、側面には3連のナマズメーカーやアンドンを装着している。精錬さと重厚感を併せ持つ逸品だ。

箱の前面には美しい輝きを放つウロコステンレスが惜しみなく張られ、「津印生鮮荷役」と刻まれたメインアンドンとともに抜群のアピール度を披露している。側面へ視線を移すと高さ90cmのアオリ下部に並ぶ蝶番の絶妙な配置が光る。中柱を境に前部は38・5cm間隔、後部は35・5cm間隔と細部まで計算し尽くされたバランスが見事だ。さらに箱側面の上部には側高灯として角マーカー11個が62cmの間隔で整然と並べられている。

足元は42φの丸パイプを用いたサイドバンパーで引き締める。スペアタイヤカバーやリアバンパーの前後面にもウロコステンレスを張り込むことで、スキのないサイドビューを創出。後ろ姿をしっかりとキメるのはステンレス製リアバンパーと全面ウロコステンレス仕上げの観音扉だ。美しさと迫力は思わず息を飲むほど。フロントからリアまで手抜きは一切ない。

# リトラス&石倉板金&サーモキング関東&トランテックス ひとつの目標に向け 至高の1台を目指す!

2年に一度開催される国内最大級のトラック関連総合展示会「ジャパントラックショー 2026」。この舞台へ出展する特別な車両を製作すべく、リトラス、石倉板金、サーモキング関東、トランテックスの4社が協力した。各社が持つ卓越した技術と強みを結集した至極の大型・中型冷凍車は会場で大きな注目を浴びた。名工たちによるコラボレーション車両が誕生するまでの興味深すぎる話をうかがった!

**究極の理想をカタチに 共通の目標に全力投球**

4社はショーに出展するためのトラックを製作するにあたって、綿密な打ち合わせを行った。そこで掲げられたコンセプトは「最新の冷凍技術を交えながら、極上のアートトラックへと飾り上げる」といった。出展車の大きな特徴は顧客からのオーダーではなく、それぞれの会社が強みを生かし、作りたいものを予算の枠組みを取り払って自由に製作した点だ。

中古車の売買や大型エンジン、ミッションのリビルト事業などを手がける「リトラス」は、独自のネットワークを生かして状態の良いシャシーやマフラー、エンジンなどを調達。名匠・石倉板金がフロントバンパーなどのアートパーツを担当した。トラック架装メーカーである「トランテックス」は随所にウロコステンレスを張ったこだわりの荷箱を製作。冷凍装置の取り付けや修理を担う「サーモキング関東」が機能性抜群の冷凍機を選定した。4社が持ち味を存分に発



リトラス東日本工場の面々で記念撮影。モノづくりの楽しさと、職人のこだわりを持って日々腕を磨き続けて製品を送り出す。

揮することで珠玉の冷凍車がついに完成。冷凍車の要ともいえる荷箱は、それぞれが意見をぶつけあった末によりよくカタチになった。

日野テラヴィをベース車としたトラックは、鮮魚を入れた箱などの荷箱を採用した。通常よりもリベットやボルトの数を増やすことで強度と見た目の良さを両立させている。また、裏側や普段は見えないジョルダーレールの収納ボックスに至るまでウロコステンレスを張るアイデアも反映された。

ボルトや箱メーカーの位置、サイドバンパーの太さなど、遠目で見ただけのトータルバランスも熟考されている。レトロムード満点の外装もそうだが、中身には最先端かつ最高級のもので選ばれた。

出展後の反響は予想以上に大きかった。大型車は高額であるにもかかわらず、SNSにアップした写真を見た顧客が来場して即決で購入が入り決定。今後は塗装や車検整備などを経て納車される予定だ。

「それぞれの強みを生かして、意見を出し合いながら作り上げていくのは本当に楽しいです。大きなプラモデルですよね(笑)」と協力した社員たちは笑顔で話す。

先導役であるリトラスでは、V8搭載車などのシャシーやエンジンといった枯渇が見込まれる車種の純正パーツのストックを強化。現物で修理ができるサポート体制を整えた「駆け込み寺」としての役

割を担う使命感を持っている。「ジャパントラックショーでは自社の技術力を見せる場としてレストア路線を継続しつつ、環境展などは実用的な顧客向けとするなど、展示会ごとにコンセプトを分けて挑んでいきます」と話してくれた。

リトラス公式YouTubeチャンネルでは動画でさまざまな取り組みの様子を紹介していくとのことだ。設計図をもとに製作された実車は各社がパーツを製作。顧客が購入した後はリトラスの東日本工場に搬入されて仕上がる。



リトラス福岡支店営業部主任  
星野 陽さん



リトラス東日本工場長  
山崎 努さん



サーモキング関東  
藤生 拓海さん



設計図をもとに製作された実車は各社がパーツを製作。顧客が購入した後はリトラスの東日本工場に搬入されて仕上がる。



走る冷却装置が街道を往来

# 美麗冷凍車 大納涼祭!

冷凍車の登場により食品輸送に大きな革新がもたらされた。特に日本では古くから食文化を重視し、食べ物新鮮なまま届けることはとても重要だった。現在、食品輸送ではトラックが重責を担っている。東西のベイエリアにある冷凍倉庫で活躍するトラックの取材を敢行。職人技と最新技術を駆使した冷凍車を総まくりだ!

フォト／秋元栄二郎、岡崎雄昌

レポート／CAT 菱川、松吉満、角来史章

